

## スポーツにおける性別確認検査とトランス排除の現在

日時 2026年11月27日（金）13：00～14：30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 井谷 聡子（研究員、文学部教授）

スポーツは、「性別」とは何かをめぐる議論の最前線の一つになっています。米国で第2次トランプ政権がスタートしてから1年半の短期間に、一度は人権と科学、倫理の観点から否定され、廃止する方向に向かっていた遺伝子検査による性別確認検査がオリンピックでも復活することになりました。

欧米社会で理想とされた「男らしさ」を男たちに教育する場として近代スポーツが使われ、同時に女性を男性とは異なる、弱い存在として分離、排除してきた歴史を考えると、性別をめぐる論争の最前線にスポーツがあり続けてきたことは、驚くべきことではないとも言えます。

しかし、2000年代以降、性的指向、ジェンダーアイデンティティ、ジェンダー表現、性的特徴（SOGIESC）に基づいた差別を解消する取り組みが欧米諸国や日本でも進み、スポーツにおける差別解消と包摂に向けたルール整備も徐々にではありましたが進められてきたはずでした。「LGBTブーム」とまで呼ばれた時代を経て、なぜ今、性の多様性や包摂、人権をめぐるこれまでの取り組みや議論の積み重ねを否定してまで性別二元制を強化しようとしているのでしょうか。そうした動きの中で何が失われているのでしょうか。

本講演では、こうした近年の動きを概観した上で、その背後にある『反ジェンダー運動』、家父長制、ファシスト的志向、そしてそれらによってスポーツの機会を奪われ、尊厳を否定される若者たちの現状に焦点を当てます。この問題の影響はスポーツの世界に留まらず、社会の隅々に及びます。スポーツに関心がある方もない方も、ぜひご参加ください。

\* \* \*

### ●聴講無料（定員200名／先着順）＜事前申込制＞

人権問題研究室ホームページ トップページ (<https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>) にある「新着情報」内の本講座案内ページの申込フォームから事前に受講申込をしてください。定員になり次第、受付を終了します。

空席がある場合に限り、事前申込をされていなくても聴講は可能です（当日会場にて参加受付を行います）。ただし、なるべく事前申込を行ってください。

\* 手話通訳や介助者同伴等が必要な場合は、11月5日（木）までに人権問題研究室へご連絡ください。



主催 関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

e-mail: [jinkenken@ml.kandai.jp](mailto:jinkenken@ml.kandai.jp)

ホームページ: <https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>



「新着情報」をご参照ください